

## ■ 全体講評

午後Ⅰ記述式試験では、各問題の難易度が平準化されていたこと、午後Ⅱ論述式試験では、論旨展開に必要なトピックが問題文の趣旨に書かれていることを根拠に、学習の成果を適切に測定ができる試験であると評価します。

以下に、午後Ⅰ記述式試験講評、午後Ⅱ論述式試験講評を述べます。

### ■午後Ⅰ記述式試験講評

3問中2問の選択になります。問1は、工作機械を販売している商社の内部統制評価、問2は、新生産管理システム導入企画の妥当性の監査、問3は、証券会社向けのクラウドサービスの監査です。システム監査技術者試験の午後Ⅰ記述式試験では、このように、業種やテーマが広範囲にまたがって出題されています。自分の経験や専門知識を活かせるテーマを選んで解答することが大事です。

問題の選択についてですが、会場受験者は問1、問2を選択する人が多数を占めています。それ以外の受験者は、問3を選択する傾向があります。本試験では、問3まで余裕をもって問題の概要をチェックするようにすると、よいでしょう。

次に記述式問題における確認項目を説明します。

#### (1)問題文の重要キーワードを解答に盛り込む

記述式問題では、問題によって正答率に違いがあります。問1では、“営業業務規程”と“操作及び承認のログ”が必ず解答に絡むと考えるべきです。

問1の設問1では、これらの重要なキーワードである「ログ」を適切に解答に盛り込んでいない解答が多かったために、正答率が低くなりました。重要なキーワードを確実に解答に盛り込むようにしましょう。

#### (2) 監査手続に監査技法を含めて表現する

論述式試験のためにも、“閲覧”、“精査”、“突合”、“インタビュー”などの監査技法を盛り込んで監査手続を表現することが重要です。

何を基に確認するのかが明確に示されていない監査手続の記述が散見されました。問3の設問2(2)の監査手続については、“月次ミーティングの議事録”を閲覧しないと確認することができません。監査手続の解答を作成したら、監査手続を適用する対象を含めて表現しているかを確認するとよいでしょう。

#### (3)設問で問われている内容と、解答の語尾が合っているかを確認する

問1の設問2では、改善勧告におけるコントロールの

内容について問われています。解答として“出荷処理忘れがあるから”など、理由に寄せた解答が散見されました。解答を書いたら、設問で何について問われているかを確認してから解答欄に記入するとよいでしょう。同様に問3の設問3において理由を問うているにもかかわらず、対策に寄せた解答が散見されました。ケアレスミスに注意しましょう。

午後Ⅰ論述式試験、及び、午後Ⅱ論述式試験を通して、次の点を確認してください。

- (1)名詞を問われている場合、あるいは、箇条書きのタイトル以外は体言止めを使用しない。
- (2)略字を使用しない。
- (3)誤字がないかを見直す。
- (4)適切に問題を選択しているかを確認して解答用紙を提出する。

問題の選択忘れや選択ミスは他人ごとではないと認識するようにして、本試験では解答提出時に最終確認を怠らないようにしてください。

本試験では、午後Ⅱ論述式試験が終了するまでの体力や集中力を考えて、午前の多肢選択式問題の開始から、午後の論述式試験の終了まで、実力が発揮できるようにしましょう。

### ■問題ごとの午後Ⅰ記述式試験講評

問1 工作機械を販売している商社の内部統制評価について

#### 【採点基準】

##### 【設問1】

整備状況：解答例の趣旨に合った解答であれば8点。趣旨に合っても、問題文にある“営業業務規程”というキーワードがない解答は部分点の4点、その他は、基本的に0点。

運用状況：“承認のログ”を必須とし。解答例の趣旨に合った解答であれば8点。その他は、基本的に0点。

##### 【設問2】

解答例の趣旨に合った解答であれば9点。趣旨に合ってもコントロールの表現になっていない解答は部分点の4点、その他は、基本的に0点。

##### 【設問3】

理由について、解答例の趣旨に合った解答であれば各8点、ただし、“自己評価”というキーワードがない解答は部分点4点、その他は、基本的に0点。

解決策について、“外部監査人による外部監査の実施”という旨を含めて、解答例の趣旨に合った解答であれば各 8 点、その他は、基本的に 0 点。

#### 【設問4】

“販売管理システム”又は“請求システム”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば 9 点、“販売管理システム”を含めていない解答は 0 点、その他も、基本的に 0 点。

#### 【講評】

**監査手続は具体的に表現しましょう。**何を確認するのかについては書いてあっても、何を基に確認するのか書かれていない解答が散見されました。

記述式問題の採点では、再現性を高めて公平性を確保するために、問題文に書かれているキーワードを基に採点をする傾向があります。“営業業務規程”や“承認のログ”など問題文にあるキーワードは正確かつ確実に解答に盛り込むようにしましょう。

設問 4 では、該当する問題文の箇所、具体的には問題文の最後で“完全性に関するコントロールを評価する必要があります”と記述されています。したがって、データ漏えいに関わるリスクについての解答は不正解としました。

#### 【設問1】

整備状況の監査手続では、何を閲覧するのかを明示していない監査手続が散見されました。そのような解答は、半分の部分点にしています。**監査手続は具体的に表現しましょう。**この問題では問題文に“営業業務規程”と明示されています。**問題文にあるキーワードは正確かつ確実に解答に盛り込むようにしましょう。**

運用状況の監査手続では、問題文にあるキーワードである“承認のログ”のない解答が散見されました。厳しいですが、このキーワードのない解答は、不正解としています。

“ログ”の代わりに“証跡”という言葉を使った解答についても、厳しいですが、不正解としています。**問題文にあるキーワードは正確かつ確実に解答に盛り込むようにしましょう。**

#### 【設問2】

コントロールの表現になっていない、“出荷処理を忘れる”など、リスクに寄せた表現になっている解答が散見されました。そのような解答については、趣旨が合っても、半分の部分点としています。**リスクとコントロールを確実に書き分けるようにしておきましょう。**

#### 【設問3】

解決策については、趣旨に合っていれば正解とし、外部監査人による外部監査の実施について言及している解答も正解としています。

#### 【設問4】

正解例では“読み込み忘れ”のリスクについて書いていますが、“読み込み忘れ”以外にも、趣旨が合っていれば正解としています。

## 問2 新生産管理システム導入企画の妥当性の監査

### 【採点基準】

#### 【設問 1】

(1) 解答例の趣旨に合った解答であれば 7 点、その他は、基本的に 0 点。

(2) “定性的効果”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば 7 点、その他は、基本的に 0 点。

#### 【設問 2】

解答例の趣旨に合った解答であれば各 6 点、ただし、指標に寄せた表現になっていない解答は部分点 3 点、その他は、基本的に 0 点。

#### 【設問 3】

解答例の趣旨に合った解答であれば 8 点、解答解説に“委員会へのインタビュー”とあるとおり、この点について言及した解答も正解、ただし、監査手続に監査技法が含まれていない解答は部分点 4 点、その他は、基本的に 0 点。

#### 【設問 4】

(1) “重要度による重み付け”などに言及することを必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば 8 点、趣旨が合っても“重要度による重み付け”などに言及していない解答は部分点 4 点、その他は、基本的に 0 点。

(2) “要件定義書の各要件”を必須とし解答例の趣旨に合った解答であれば 8 点、趣旨が合っても“要件定義書の各要件”がない解答は部分点 4 点、その他は、基本的に 0 点。

#### 【講評】

KPI を適切に表現できていない解答が散見されました。“顧客への平均納期の短縮日数”など、**KPI を表現するときは語尾を指標に寄せて表現してください。**また、“顧客への平均納期”などという解答も散見されました。“顧客への平均納期の短縮日数”など、**KPI を表現するときは成果の観点から表現するようにしましょう。**

【設問 2】では、“材料の所要量”という解答が散見されました。この設問では、“材料在庫の圧縮”という問題文の記述から、KPI を求めます。問題文に“材料の欠品を防ぐために多めに材料を発注する傾向が強く”という記述から材料在庫が過多になっていると理解してください。したがって、これに関わる KPI は“材料の合計在庫金額の減少量”などとなります。これを根拠に“材料の所要量”に関わる解答は厳しいですが、不正解としました。

監査手続を適切に表現できていない解答が散見されました。

“要件定義書の各要件”という言葉の代わりに“ユーザーからの各要求”という言葉を使った解答が散見されました。**要求と要件を書き分ける**ようにしましょう。

[設問1]

(1) 正答率の高い設問です。

(2) 趣旨が合っても“定性的な効果”というキーワードを含めない解答は、厳しいですが不正解としました。問題文にある“定量的な効果”から“定性的な効果”を導いてほしいです。

[設問2]

KPIは指標です。したがって、**KPIを解答するときは指標に寄せて表現する**ようにしてください。指標に寄せた表現になっていない解答は半分の部分点にしています。

更に、**KPIを表現するときは“短縮日数”や“在庫金額の減少量”など成果に寄せて表現する**ようにしましょう。

なお、解答では、“～を示す指標”という解答が散見されました。厳しいですが、半分の部分点にしています。

[設問3]

正答率の高い設問です。ただし、語尾が“改善する”など、監査手続の表現になっていない解答が散見されました。“議事録を閲覧して確認する”、“委員にインタビューして確認する”など、**監査手続には監査技法を含めて表現する**ようにしましょう。

[設問4]

(1) 解答例に含まれる“重要度”あるいは“重み付け”などのキーワードのない解答は部分点4点としています。

(2) 解答例に含まれる“要件定義書の各要件”の代わりに、“要求”について言及している解答が散見されました。要件定義書に書かれているのは要件です。更に、表1のフィット・アンド・ギャップ分析の記載内容の箇所に“必要要件の充足度”と書かれています。**要求と要件を書き分ける**ようしましょう。

解答例に含まれる“要件定義書の各要件”を含まない解答は部分点4点としています。

### 問3 証券会社向けのクラウドサービスの監査について

【採点基準】

[設問1]

解答例の趣旨に合って、確認事項について漏れがない監査手続きについて記述した解答であれば10点、その他は、基本的に0点

[設問2]

(1) 解答例の趣旨に合った解答であれば各5点、その他は、基本的に0点

(2) “月次ミーティングの議事録”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば10点、ただし、“承認された日と再発防止策が実施された日を確認する”という旨の記述がない解答については部分点5点、趣旨が合っても“月次ミーティングの議事録”がない解答は不正解、その他は、基本的に0点

[設問3]

“運用課長の判断に委ねられている”という旨を理由とした解答を含め、解答例の趣旨に合った解答であれば10点、その他は、基本的に0点

[設問4]

解答例の趣旨に合った解答であれば10点、その他は、基本的に0点

【講評】

問3は最後の問題なので、会場受験では選択率は低くなりましたが、それ以外の自宅受験者では選択率が高い問題でした。

設問2の(2)では、“再発防止策が権限者の承認の後に実施されていること”という監査のポイントを立証できる監査手続を解答する必要があります。そのためには、再発防止策の承認日付と再発防止策の実施日付を比較する必要があります。この設問で問われている監査手続を解答する際には、これらの点を含めるようにしましょう。このように、**監査手続は具体的に表現する**ようにしてください。

理由を問われているにもかかわらず、対策を書いている解答が散見されました。“**設問で問われている内容と、解答の語尾が合っているかを確認する**”ようにしましょう。具体的には、設問3において理由が問われているにもかかわらず、“基準を定義する”など対策が書かれている解答が散見されました。

[設問1]

正答率の高い設問です。“突合”という監査技法について言及している優れた解答も散見されました。

[設問2]

(1) “承認した日付”の代わりに、“承認者”という旨の解答が散見されました。問題文を読むと、“再発防止策は、保守チームのリーダが、当該ミーティングの結果を受けて、システム障害報告書に承認者として署名した後、実際される”という記述から、表1にある“承認者”は再発防止策の実施の承認者であることが分かります。したがって、表2の④にある“再発防止策が権限者の承認”という部分に着目した場合、システム障害報告書に



再発防止策の実施の承認者欄があるので、システム障害報告書において承認者という面では問題はないと考えることができます。以上を根拠に、“承認した日付”の代わりに“承認者”という旨の解答は不正解としました。

(2) 解答例にある“承認された日と再発防止策が実施された日を確認する”という旨の記述がない解答については部分点5点としました。監査手続は具体的に表現するようにしましょう。

厳しいですが、“月次ミーティングの議事録”というキーワードがない解答は不正解としました。

#### 【設問3】

“運用課長の判断に委ねられている”という旨の解答も正解としています。

設問において“理由”が問われているにもかかわらず、“情報セキュリティ委員会に報告する”という対策に寄せて表現した解答が散見されました。解答を書き終わったら、設問で問われている内容と、解答の語尾が合っているかを確認するようにしましょう。

#### 【設問4】

難易度の高い設問です。正答率は3割ほどです。

### ■午後Ⅱ試験

2問中1問の選択になります。問1は、グローバルな統一システムの企画段階の監査、問2は、マネジメントシステムの維持・改善に向けた監査、です。

システム監査技術者試験の午後Ⅱ論述式試験では、出題範囲が広いために、ポイントを絞った事前学習が難しいです。したがって、リスク要因、リスク、コントロール、監査ポイント、監査手続、監査証拠の考え方をしっかりと習得しておくことが重要です。

基本的な論述の仕方ですが、確認すべきポイントを挙げておきます。

- (1) 禁則処理をする
- (2) 段落は字下げをして書き始める
- (3) 設問文に沿った章立てをする
- (4) ていねい語は使わない
- (5) “である”調に統一する

### ■問題ごとの午後Ⅱ試験講評

問1 グローバルなシステムの維持・改善に向けた監査

#### 【講評】

問題のタイトルを見ると難しい問題のようですが、設問イでは、問題文の趣旨に課題が5つ挙がっています。これを基にリスク要因、リスクを論じます。設問ウでは、リスクを踏まえて、課題解決策とも絡めながら監査手続を論じます。

問2 マネジメントシステムの維持・改善に向けた監査

#### 【講評】

広範囲にマネジメントシステムを対象としているので、論述しやすい問題です。設問イで問われている“内外の環境の変化”を適切に論述する必要があります。問題の趣旨に例が挙がっているので参考にするとよいでしょう。

### ■合格に向けての学習

#### 〔午後Ⅰ記述式試験〕

公開模擬試験の結果をレビューしましょう。それが終わったら、本試験問題などを演習して、得点できなかった設問について、解答解説と自分が導いた解答を比較して、ギャップが生じた原因を分析する方法は、得点力を上げる方法の一つです。ぜひ、実践してみてください。

#### 〔午後Ⅱ論述式試験〕

公開模擬試験のレビューをしたら、弱点を自己診断し対策を講じましょう。

監査手続を書けない受験者が散見されることが、試験センターの試験講評の内容から分かっています。論述式試験のために、監査手続の対象、監査技法、監査証拠を含む監査手続を書けるようにしておきましょう。

本番のシステム監査技術者試験の午後Ⅱ論述式試験では、見たことがない問題が出題されると考えてください。出題範囲が広いからです。そのため、リスク要因、リスク、コントロール、監査ポイント、監査手続、監査証拠に関する知識を整理しておき、知識を使え、応用できるようにしておくことよいでしょう。

本試験で見たことがない問題に直面しても、焦らないことです。受験会場のほぼ全員がそのように感じているからです。“しっかりと専門知識を習得しているから大丈夫”と考え、問題文の趣旨をヒントにして論述内容を自分の頭から絞り出すようにしましょう。

合格に向けて、がんばりましょう。

—以上—